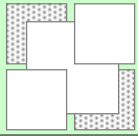


第3部 分野別の基本方針

都市構造
土地利用
交通体系
都市環境
都市防災



都市構造

- 1 地域を形づくってきた背景を活かしたまちを育みます
- 2 鉄道、道路の軸を活かしたまちをめざします
- 3 地形、緑地、河川を活かしたまちを育みます

< 現状・課題 >

土地利用の特性

- ・宮前区は多摩丘陵の南端部に位置し、尾根線と谷戸が入り組んだ豊かな自然環境・景観が残されている区であり、谷を流れる平瀬川、平瀬川支川、矢上川、有馬川に沿って、古くから人々の生活が営まれてきました。
- ・現在では鷺沼駅～宮前平駅～宮崎台駅の東急田園都市線沿線を中心に、宮前区の生活を支える拠点が形成されています。また、東名高速道路インターチェンジや幹線道路、JR武蔵野南線貨物線に隣接する地区には、中央卸売市場北部市場や梶ヶ谷貨物ターミナルなどの流通業務機能が集積しています。

区民の生活を支える交通体系

- ・区内の交通体系は、東急田園都市線や鉄道駅への移動手段としてのバス等の公共交通と国道246号線や尻手黒川道路（尻手黒川線）等の道路網で構成されていますが、将来、川崎縦貫高速鉄道線を整備した際には、区内を東西に横断する公共交通体系が大きく変化していきます。

豊かな自然環境

- ・宮前区の特徴である豊かな自然環境の観点から都市構造をみると、生田緑地や菅生緑地等の大規模な公園緑地や市街地の中の公園などの「緑の拠点」とそれらをつなぐ多摩丘陵の斜面緑地、さらに平瀬川や矢上川などの河川によって形成されています。
- ・これら宮前区の土地利用の特性や交通軸、自然環境を活かした都市の形成が求められています。

1 地域を形づくってきた背景を活かしたまちを育みます

(1) 地域の特性を活かしたまちづくり

- ・宮前区は、市街地が形成された歴史的経緯や地域特性等を踏まえると、「東急田園都市線沿線地域（東急田園都市線を中心とする地域）」、「平瀬川地域（平瀬川に沿って形成された地域）」、

「有馬・野川地域（有馬川と矢上川に沿って形成された地域）」の3つの生活圏で構成されています。これらの生活圏の特性を活かしたまちを育みます。

東急田園都市線沿線地域（東急田園都市線に沿って市街地が形成された地域）

- ・宮前平駅、鷺沼駅を本市の「地域生活拠点」として、潤いとにぎわいのある街なみの形成
- ・駅周辺の利便性の高い地区での戸建住宅と中高層の共同住宅の調和した市街地の形成
- ・土地区画整理事業で形成された戸建住宅地の良好な住環境の形成

平瀬川地域（平瀬川に沿って市街地が形成された地域）

- ・平瀬川の自然環境や景観を活かしたまちづくり
- ・低層住宅地の住環境の保全・向上
- ・良好な斜面緑地や優良な農地の保全による良好な住環境の形成
- ・平瀬川上流域の緑地保全・整備

有馬・野川地域（有馬川・矢上川に沿って市街地が形成された地域）

- ・河川の自然環境や景観を活かしたまちづくり
- ・優良な農地の保全
- ・低層住宅地の住環境の保全・向上
- ・矢上川上流域の緑地保全・整備

（2）まちの拠点

地域生活拠点

- ・鷺沼・宮前平・宮崎台の3駅を結ぶ東急田園都市線沿線を中心に、市民の生活を支える拠点が形成されています。特に、この3駅の中でも商業集積が進んでいる鷺沼駅周辺地区と区役所等の公共施設が立地する宮前平駅周辺地区は、本市の「地域生活拠点」として、土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅が調和した活力のある市街地の形成を促進し、宮前区の中心として魅力ある拠点の形成をめざします。

生活拠点

- ・東急田園都市線宮崎台駅周辺は、通勤・通学や買物など、市民の日常生活を支える「生活拠点」として、近隣住民のための商業機能や生活支援関連サービス業務機能等の集積を図り、地域住民の生活に密着した生活利便性の高い拠点の形成をめざします。

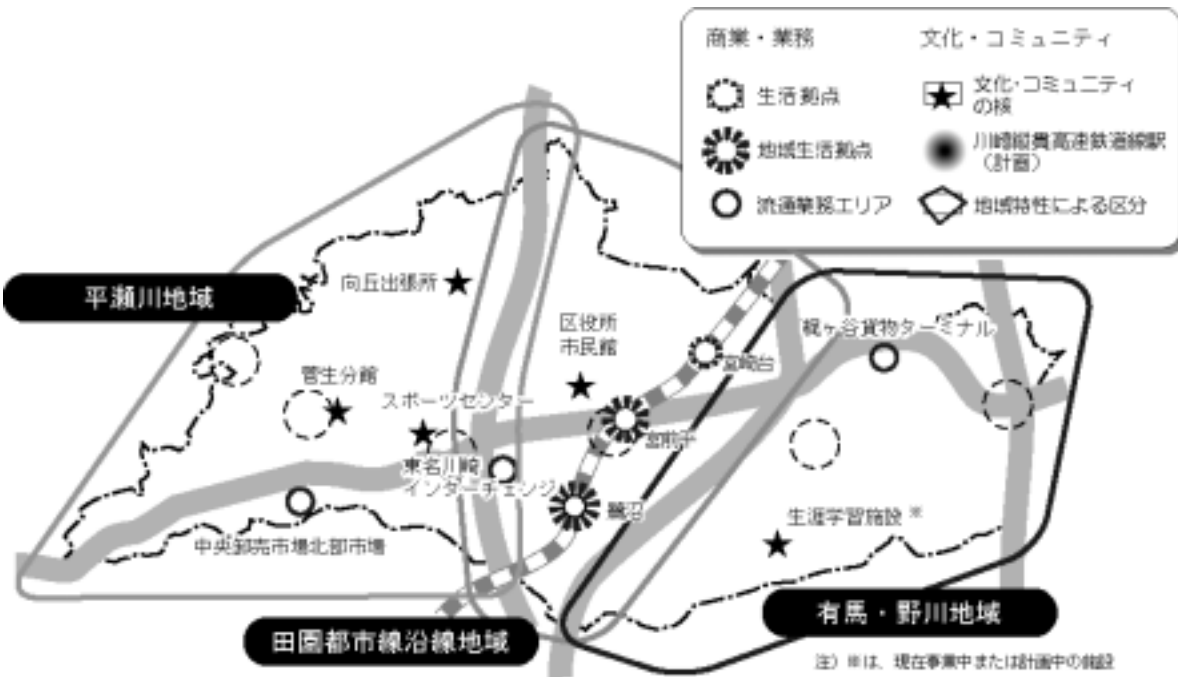
（3）流通業務エリア

- ・中央卸売市場北部市場やJR梶ヶ谷貨物ターミナルや東名高速道路インターチェンジ周辺の幹線道路沿いには、流通業を中心とした産業が集積しています。これらの地区では、周辺市街地の住環境への影響に配慮した流通業務道路緑化や事業所緑化を進め、周辺市街地環境に配慮した、住民の発意による主体的なまちづくり活動を支援し、良好な街なみ景観の形成をめざします。

（4）良好な生活環境

- ・市民の交流や文化活動の場である区役所や市民館、市民館分館、スポーツセンター等の公共施設は、地域の核となる施設です。日常生活において暮らしやすいまちづくりを実現するため、これらの公共施設を核にしながら、地域における住民の発意による主体的なまちづくり活動を支援し、良好な生活環境の形成をめざします。

宮前区の「生活」をかたちづくる要素



2 鉄道、道路の軸を活かしたまちをめざします

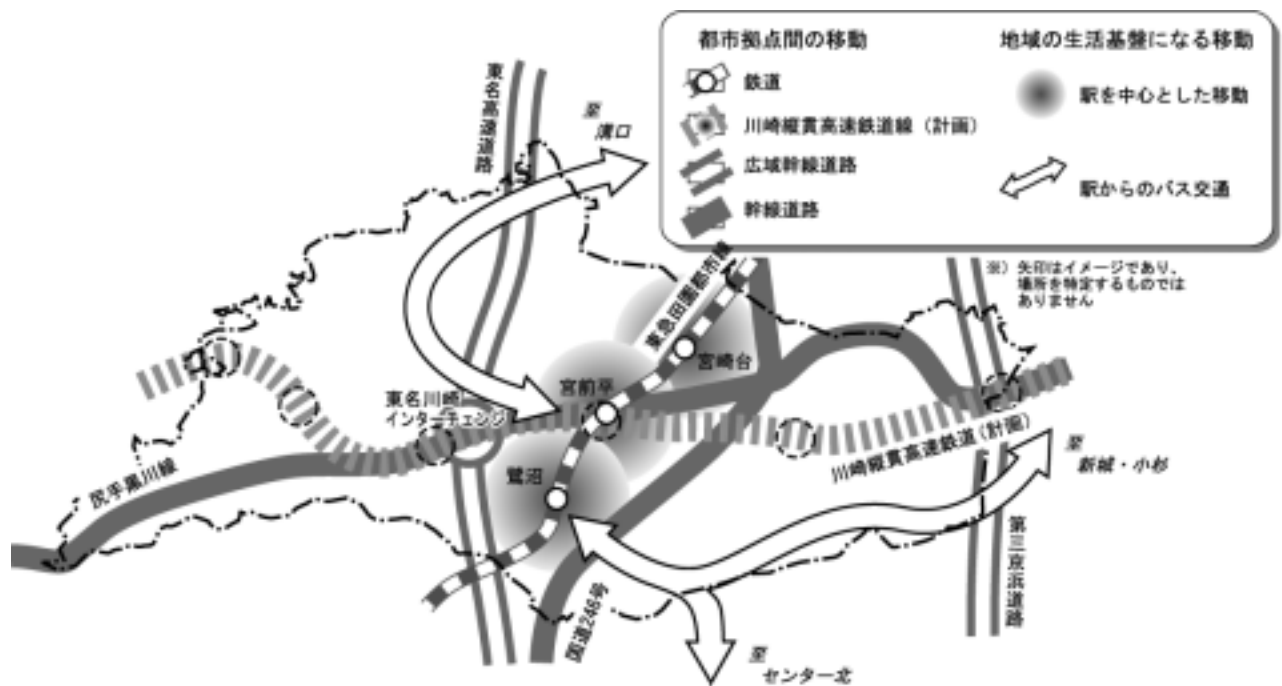
(1) 地域の交流を支える交通体系

- ・ 周辺都市との連携や区内の各拠点・地区の交流・連携を支える「鉄道軸」として東急田園都市線と川崎縦貫高速鉄道線を、「道路軸」として、東名高速道路、第三京浜（国道 466 号線）、尻手黒川道路（尻手黒川線）等の主な幹線道路を位置づけ、安全で快適な交通環境の整備に努めるとともに、環境に配慮した交通施策に取り組みます。

(2) 生活に身近な交通環境

- ・ 高齢者や障害者を始め、誰もが快適に暮らせる生活空間を形成するため、バリアフリーに配慮した歩道、道路の整備や地域の主体的な検討や運営によるコミュニティ交通の導入に向けた取組への支援等により、生活に身近な交通環境の整備をめざします。

宮前区の交通体系を形成する要素



3 地形、緑地、河川を活かしたまちを育みます

(1) 緑の拠点

- ・主な公園・緑地、を「緑の拠点」として位置づけ、市民が自然とふれあえるまちを育みます。

大規模な公園・緑地：生田緑地、菅生緑地、県立東高根森林公園

市街地の中の主な公園：有馬ふるさと公園、鷺沼公園、宮崎第一公園、宮崎第四公園など

区を代表する自然的環境資源：野川緑地群

(2) 緑の回廊

- ・宮前区の区境の尾根線に沿って、野川から有馬、水沢、生田緑地、県立東高根森林公園とつながる公園・緑地や斜面緑地等を「緑の回廊」として位置づけ、緑の自然環境や景観を活かしたまちを育みます。

(3) 水の軸

- ・区内を流れる平瀬川、平瀬川支川、矢上川、有馬川を「水の軸」として位置づけ、河川の自然環境と親水空間を活かした潤いのあるまちを育みます。

宮前区の「緑と水」をかたちづくる要素

